

第23回ミツバチ科学 研究会に参加して

石倉 長作

雪の北国札幌からミツバチ科学研究会に参加させていただくのを毎年楽しみにしている。

日頃ミツバチ生産物を販売しているが、医療関係者のお客様が多く、20年以上お世話になっているお客様もおられ、創刊号から読ませていただいている「ミツバチ科学」ともどもこの研究会はミツバチ関連情報の大きな入手先となっており、感謝している次第である。

今年のミツバチ科学研究会は1月14日(日)に開催され、午前に東京農工大学大学院の小林万記さんが「花粉媒介昆虫としてのニホンミツバチ～ラビットアイブルーベリーの結実への影響」を、玉川大学大学院の市川直子さんが「加齢と経験がミツバチの記憶・学習能力に及ぼす影響」について研究発表、松香教授が「アジア養蜂研究協会大会、国際プロポリス会議ほか報告、国際養蜂会議予告」を行った。昼食をはさんで、午後からの特別講演では、田中肇さんの「花の色と形－花が蜂を利用するために－」および玉川大学藤本琢憲客員教授の「UVスペクトルおよびクロマトグラフィ分析からみたプロポリス多様性」の2講演があった。販売に携わるものとしてハチミツ、ローヤルゼリー、プロ



研究発表する小林さん(左)と市川さん



特別講演中の田中さん(上)と藤本教授

ポリスなどの生産物関連の報告に興味を抱きがちだが、その背景にある生態などに関する研究報告を聞くと、人間の歴史とともに歩んできたミツバチにも興味が高まる。

また懇親会にも極力出席させていただくようにさせていただいており、研究されている方、養蜂家の方々、販売に携わられている方など、それぞれの立場の方との新たな出会いから多くのことを学ばせていただいている。

情報の氾濫でミツバチ生産物も何が正しい情報か消費者が戸惑うことも多くなってきているようだが、より本質を理解いただき支援されるミツバチ生産物の販売を続けたいと思っているので、国内で数少ないミツバチの総合研究をされ、ミツバチ関連の情報を発信し続けられる玉川大学の皆様への感謝は尽きない。

崩壊しはじめている自然システム、地球の健康診断はミツバチにお願いするしかないようであるし、また人間の生き方もミツバチに教えてもらわなければならないことが多々ある気がする。

今後とも研究会に参加させていただき、さらにミツバチ関連の勉強していこうと思う。

(〒001-0020 札幌市北区北20条西8丁目20

ロイヤルライフ(株))